

～介護・福祉サービスに携わる皆さまへ～

## 樺太(サハリン)帰国者事情・介護事情あれこれ



終戦後、集団引き揚げで多くの人々が樺太(今のロシア連邦サハリン島)から本土に引き揚げました。しかし戦後の混乱の影響で日本に帰れず、樺太に留まらざるをえない人もいました。日本人であることを隠し、日本語を使うことができないような暮らしを続けてきて、戦後50年、60年と経ってようやく日本への帰国を果たした人たちが樺太等帰国者と呼ばれる人たちです。

樺太等帰国者の中でも、戦争前後の樺太を知る一世たちは優に70歳を超え、介護サービスを必要としていたり、介護サービスをすでに受け始めたりしています。さらにその孫や子の世代になると、仕事として介護サービスの世界に関わろうとする人もいます。しかし介護の現場では言葉の壁、文化の壁などにより、帰国者たちには人知れず苦勞があるようです。

そこで、介護・福祉に携わる皆様に樺太等帰国者について知っていただくための小冊子を作成いたしました。ただし本文でも触れます通り、樺太等帰国者と一括りで言っても内実は地理的背景、家族的背景、世代的背景により介護に対する考え方、日本人の対応や発言に対する受け止め方も様々です。このため、私たちが持っている情報や、帰国者本人に対する聞き取り調査などから、樺太等帰国者の考え方、彼らが介護サービスの現場で経験したことなどをそのまま拾い上げ、書き留めてみました。

介護・福祉に携わる皆様方が樺太等帰国者に接する際に、本小冊子が何かのお役に立てば幸いです。

1. 樺太等帰国者事情 .....	p2
2. 樺太等帰国者が日々感じていること.....	p2
(1) 疎外感や孤独感           (2) 言葉の壁           (3) 介護・福祉サービス全般に対するイメージ	
(4) 日本の介護・福祉サービスの印象	
3. 介護福祉施設で働く二世三世 .....	p3
(1) 言葉の問題           (2) 食事作り	
4. 樺太等文化事情.....	p4
(1)「食」について           (2)「衣」について           (3)「入浴」について	
(4) 年中行事について       (5) ロシアの迷信	
5. 樺太等帰国者が描く自分たちの未来 .....	p8

## 1. 樺太等帰国者事情

樺太(今のサハリン)等帰国者といっても、実に多様な人たちを指します。ロシアを含む旧ソ連の国々から帰国した人々を樺太等帰国者一括りにしていますが、背負う背景は様々です。

- ◆**地理的背景** …出身地は樺太を主としている。出身地ごとにコミュニティを作っていることが多い  
⇒樺太、樺太以外のロシア、ウクライナ・カザフスタンなど旧ソ連の国々
- ◆**家族的背景** …日本人だけの家族、日本人と韓国人の家族、配偶者がロシア人の家族など様々  
⇒食事や生活習慣などは家族的背景に大きく左右される
- ◆**世代的背景** …戦前の日本領有下の樺太時代世代あり戦後世代あり  
⇒文化や価値観、日本語が母語か否かも異なる

### 〈樺太からの帰国者〉

- ・広い大陸が続くロシアにあって唯一島嶼からなる地域  
⇒ロシアの中でも独特の文化
- ・日本文化、韓国文化、ロシア文化が混在、あるいは混合
- ・言語も日・韓・ロシアの3か国語を話せたり、日本・韓国・ロシア名を持っていたりする人も。ただし、日本文化に比べて韓国文化やロシア文化が優勢。

### 〈大陸の旧ソ連邦の国々からの帰国者〉

- ・ロシアやウクライナ、カザフスタンなど各国の考え方や価値観(サハリンとは異なる)が中心



日本サハリン協会サイトより

## 2. 樺太等帰国者が日々感じていること

帰国者の中でも特に一世たちは、若い頃には「日本人だ」というだけで肩身の狭い思いを強いられ、帰国してからは逆に日本人と見てもらえないという辛い状況を経験してきました。彼らの半生は、どの集団に帰属するのかわからない、いわばアイデンティティの喪失との戦いともいえます。彼らが普段どんなことを感じ、何に不安を覚えるのか、帰国者たちの声をご紹介します。

### (1) 疎外感や孤独感

- ◆日本人が何気なく発する言葉に傷つくことがある。特に「あっちの人」「日本ではこういうふうにします」など、日本と外国をことさらに区別するような表現に疎外感や孤独感を感じている。「両親も日本人で、これまで自分は日本人だと思っていたが、帰国してみて日本人とは見られていないことがわかった」と語る一世も。
- ◆帰国者もその配偶者や家族も、自分たちのスタイルや文化を残しつつも、日本人コミュニティに溶け込みたいと努力しているため、日本人からちょっとした一言が苦い記憶として深く心に刻まれることがある。

## (2) 言葉の壁

- ◆ 帰国者一世の中には両親が日本人で、結婚するまでは家庭内で日本語を使ってきた人がいる。このような人は会話での苦労は少なく、介護・福祉等の現場でもスムーズにコミュニケーションが成り立っている。
- ◆ 高齢の帰国者の中には幼くして丁稚奉公に出されて学校に通えなかった人も少なくなく、流暢に日本語を話せても、平仮名、片仮名の読み書きさえできなかつたり、漢字がわからず文字を読んで理解するのが得手ではないことがある。
- ◆ 自治体等からの通知や案内などは見ただけではほとんどわからず困惑していることがある。会話によるコミュニケーションが可能な一世に対しては、こうした通知文などは口頭で読んで説明することで十分に理解してもらえることが多い。
- ◆ 同じ帰国者でも二世、三世、また当然のことながらロシア人や韓国人の配偶者にとっては日本語は全くの外国語である。帰国後、40歳代、50歳代、あるいはそれ以降の年齢から外国語として日本語を学んでいるため、会話でも読み書きにおいても壁を感じている。妻がロシア人というある帰国者は「私が死んだ後、日本語が話せない妻が一人で老人ホームにいる姿は想像できない」と話している。

## (3) 介護・福祉サービス全般に対するイメージ

- ◆ 介護等が必要な状況になったときの対応は、日本人同様、人によって考え方は様々。カザフスタンなど中央アジアには極めて保守的な考え方が今も根強くあり、「子供が親を見捨てることはありえない」というのが基本的な立場。日本とは違い、通常一番末の息子家族が親の面倒を見る。
- ◆ 日本語が母語ではなく、帰国者の配偶者として日本に来たロシア系の人たちは自らの将来について漠然とした不安を抱えていることが多い。日本の介護・福祉サービスを受けるか否かは本人の意向よりも、まずは子供や孫の意向に従わざるを得ないというのが、彼らが置かれている状況とも言える。
- ◆ 樺太からの帰国者には日系、韓国系ともに、長幼の序を尊び、親孝行しなければならない、つまり老親は家族で介護、看護すべきという考えがある。その一方で「子供たちには迷惑をかけたくない」という人もおり、将来必要になれば、自分も何らかの形で介護・福祉サービスを利用したいと積極的に考える人もいる。

## (4) 日本の介護・福祉サービスの印象

- ◆ 樺太からの帰国者でサービスを受けている世代の人たちには日本語での意志疎通にそれほど支障がない人が多い。そのためか日本の介護・福祉サービスに対して好印象を持っていることが窺える。
- ◆ 衛生管理面に対する評価が高い。「帰国前に見た施設とは違い、施設内には排泄物などの悪臭はなく、衛生的で家族を預けていても安心していられる」。
- ◆ 職員の優しい心遣いに感謝する人が多い。「職員が自分たちのことを理解しようと一生懸命なのが感じられる」「とても良くしてもらっている」「スタッフの笑顔にはいつも気持ちが温かくなる」など。
- ◆ 実際的なメリットがある。「施設に行けば他の人と交わることができる」「食事制限がある場合に施設では適切な食事管理をしてもらえる」。
- ◆ ホームヘルパーのサービスを利用している人は安心感、孤独感の解消など副次的効果を実感している。「ヘルパーさんが毎日来てくれ、薬を飲んだか、体調はどうか、食事は摂ったかなど気遣ってくれ、独居でも安心感がある」。日本に親族がおらず独り暮らしをしている帰国者は、「掃除などの作業で部屋の中を移動するヘルパーさんの後をついて回り、話し相手になってもらっている」。
- ◆ 日本の高齢者同様、帰国者一世たちはいわゆる“古き良き時代”の日本的価値観を保持している傾向

があり、相手に対して謙虚であろうとするがあまり、介護等の現場で要望や注文があってもつい遠慮してしまう。特に日本語が話せる帰国者一世は第三者(外部の支援者等)に代弁を頼む機会がなく、辛い現状をも甘受して「文句は言わない」「世話してくれるだけでありがたい」と自分を納得させようとしがち。

### 3. 介護福祉施設で働く二世三世

---

今後、介護福祉サービスの分野では、日本人を知り、日本の文化や習慣の中で暮らす帰国者二世、三世が働く機会が増えていく可能性があります。特にロシア語を母語とする帰国者やその配偶者のケアでは、日本語とロシア語の両方を話し、両方の文化や習慣を知る彼らは貴重な人材になり得、日本人利用者のケアにおいても必要とされる戦力になると思われます。

介護福祉の現場での就労経験のある帰国者二世、三世がどのような時にやりがいや困難を感じたかを以下にまとめました。

#### (1) 言葉の問題

- ◆食事や入浴介助など利用者との接し方は各事業所にマニュアルがあり特に困ることはないが、「日報を毎日作成しなければならないのがとても苦痛」など、日本語の作文力に起因する壁にぶつかることがある。
- ◆緊急時の対応がちょっとしたトラウマになってしまったケースも。「入所者の容体が急変し、救急車を呼ばなければならなかったときにはとても緊張した」。
- ◆語学力のせいで直面した問題を同僚のサポートで何とか克服できたこともあった。しかし日本語、特に漢字の知識が乏しいことが大きなハンデであることは事実で、「あなたの日本語はわからない」と面と向かって言われ、悔しい思いを抱きながら仕事をした人もいる。
- ◆救急対応などへの不安から、ある職場では帰国者二世や三世を1人体制で行う夜勤のシフトには入れないなどの配慮をしていたようだった。

#### (2) 食事作り

- ◆日本人の食文化との間に違いがある。介護・福祉業界で勤務経験のある帰国者は韓国系の家に育ったため、日本の煮物のような甘辛い味付けの料理を作ったり食べたりする経験はなかった。このため「レシピと首っ引きで調理していたが、主任に味見してもらおうといつも何か足りないと言われた」とのこと。
- ◆冷蔵庫にある食材を使って作れるメニューを考えるよう言われたときに「ニラしかなかったが、思いついたメニューはチヂミ(韓国風お好み焼き)だけだった」と、日本食を知らないが故の苦労がある。

### 4. 樺太等文化事情

---

帰国者たちはロシアのほか、カザフスタン、ウクライナなど様々な文化を守りながら暮らしています。また樺太からの帰国者については、ロシア、韓国、日本等の文化が融合した独特の文化も根付いています。

#### (1) 「食」について

##### 1) 帰国者たちは甘い味付けが苦手

- ◆帰国者に日本料理の感想を尋ねると、たいてい「おいしいです」と答えるが、よくよく聞くと「醤油と砂糖で味付けした甘辛い味の煮物は口に合わない」、同様に「酢に砂糖を加えた酢の物も苦手だ」と答える。甘い味付けはご飯に合わないと感じている。
- ◆煮魚の定義も日本とは異なる。「私はよく煮魚を食べます」という帰国者がいたため作り方を尋ねると韓国

風の煮魚だった。日本の煮魚は生姜を入れて醤油と砂糖で甘辛く味付けし、汁は飲まない。一方、帰国者が好んで作る韓国風の煮魚は唐辛子やニンニクを入れて醤油で味付けし、汁はたっぷり盛り付け最後に飲み干す。日本人の感覚からすれば、ニンニク風味の魚のスープに近いかもしれない。

## 2) ネバネバの食材も苦手

- ◆ネバネバの食材と言うと納豆をすぐに思い浮かべるが、納豆は意外に食されている。帰国者に限らず、納豆を好むロシア人は珍しくはない。
- ◆オクラ、長いも、モロヘイヤなどのネバネバ食材はロシアにはなく、抵抗を感じる帰国者は少なくない。糸を引く見た目、ヌルヌルした食感にハードルの高さを感じるようだ。「ようやく食べられるようになったが、最初は気持ち悪かった」と話す人もいる。
- ◆一般に、ロシア人の間では「日本食は独特だが、体に良い」と薬膳感覚で日本食を食べる人もいる。

## 3) キムチ文化

◆樺太からの帰国者家庭では食卓にはキムチが欠かせない。帰国後も秋になったら自分の家で20株も30株も漬ける人は珍しくない。キムチを保存するための専用の「キムチ冷蔵庫」を韓国から調達する家庭もある。キムチについても帰国者は日本のキムチは甘ったるいとこぼす。



## 4) サハリン(樺太)料理

- ◆帰国者たちの家庭料理は家族的背景に大きく左右される。本人が日本人でも、配偶者が韓国系であったりロシア系であったりすると、家庭での食事でも韓国料理やロシア料理が中心となる。但し、それは「サハリン(樺太)料理」と言ってもいいもので、本場の料理とは調味料の使い方が異なり、少し味が違う。樺太にいた日本人でも配偶者が日本人でないことが多く、日本料理が主流という家庭はむしろ少ない。
- ◆外国から伝わって家庭料理として定着した物には、朝鮮系の人が持ち込んだ「人参サラダ」(ナムルのような物)や、中央アジアから伝わった「ピラフ」(肉、野菜、油をたっぷり使った塩味の炊き込みご飯)などがある。美味しい料理をごちそうになると、その作り方を聞き、自分の家でも作ることが普通。
- ◆大陸からの帰国者はロシア料理が中心である。

## 5) 主食はパンと米飯

- ◆帰国者の家庭では主食はパンと米飯の両方が多い。パンは店で買うが、ピロシキ、ペリメニ(ロシア風餃子)、クレープなど小麦粉を使った料理は自分でもよく作る。日本のパン生地はやや甘いと感じる人が多い。
- ◆麺類はうどん、ラーメンを食べる。マカロニを使ったロシア料理もある。
- ◆ジャガイモも茹でたりマッシュポテトなどにしたりして、主食のようによく食べる。



## 6) 帰国者のロシア料理

- ◆ロシア料理ではスープがよく食べられ、種類も豊富だ。本来ウクライナ料理であったボルシチは代表的なスープ料理でそれぞれの家庭の味がある。
- ◆ヨーグルト、チーズなどの乳製品はよく食べる。ソーセージやハムもよく食べられている。特にサーラと呼ば

れる豚の脂身の塩漬はロシア人のみならず帰国者にも欠かせない食べ物である。魚は燻製や塩漬、干し魚で食べることが多い。

- ◆ロシアでは貯蔵技術や輸送インフラの影響で冬に生野菜が極端に少なくなる。このため山菜や野菜の塩漬などを瓶詰にして越冬に備える習慣がある。日本ではいつでも青果物が手に入ると喜んでる。

## 7) 氷の入った水やジュースは喉に悪いと考えている

- ◆レストランなどでグラスの水やジュースに氷が入っているのは日本人にとっては当たり前のことだが、帰国者は氷が入った水やジュースは好まない。喉が冷えて身体に悪いと考えられている。
- ◆一般的にロシアではコーヒーよりも紅茶を飲む人が多い。健康ブームで日本の緑茶や抹茶を飲む人も。ロシア人の中には、紅茶のように、緑茶やほうじ茶に砂糖を入れて飲む人もいる。お茶に入れる砂糖の量は日本人が驚くほど多いことがまある。
- ◆ロシアの菓子は全般に日本の菓子と比べると強烈に甘い。ただし、こうした点は味の好みは単に異なるためという認識に留めた方がよい。このような場面に遭遇すると「日本の菓子の方がおいしい」とか、「日本の方が良質だ」とか、「ロシアの菓子は甘すぎて健康に良くない」ということをつい強調してしまいがちだが、それは高齢の帰国者が長年慣れ親しんできた食文化や味覚を頭から否定することになる。健康を慮って糖分を控えるよう指摘したり、こうしたことを話題にしたりする際には相応の気遣いが求められる。

## (2)「衣」について

- ◆ロシアやサハリンは、冬季の寒さが厳しいので、コートを着て帽子をかぶり、しっかり身支度を整える。
- ◆買い物など外出するときには必ず着替えて出かける。普段着でエプロンのまま買い物に行くことはしない。着るものについてはおしゃれである。コンサートやパーティの時は、職場からでも服を着替え、靴も履きかえてきれいに着飾っていく。ただし日本ではクロークのある会場が少ないので戸惑うという。

## (3)「入浴」について

### 1) デイサービスなどでの入浴に対する印象

- ◆日本人の利用者同様、人によって、また施設によって、さらには身体機能の差によって、入浴サービスに対する評価は分かれるようだ。「デイサービスで風呂に入ったことがあるが、狭く窮屈で落ち着かず、一度利用したきり使っていない。家でシャワーを浴びている」という声もあれば、「入浴の時にはスタッフがすっかり洗ってくれるため気持ちが良い」という声もある。
- ◆異性のスタッフに入浴介助されることへの抵抗感は強い。

### 2) ロシアでの入浴方法

- ◆西洋式に石鹸をつけてそのまま浴槽に入り、シャワーで洗い流すというのが一般的。一人ずつ使った湯は流す。ただしロシアでは水道事情が悪いのと水の節約のため、やむなくシャワーを使っている人もいる。
- ◆日本に来て温泉を知り、大きな浴槽に浸かって楽しむ帰国者は多い。それでも日本のように、同じ湯に交代で何人も入るといった習慣には馴染めないところもある。風呂を衛生的に利用するという点では日本もロシアも同じだが、衛生的な環境を維持するためのアプローチが異なる。双方の考え方の違いを理解し合えれば、日本的アプローチの合理性も伝わると思われる。
- ◆夏にはシャワーだけで済ますことも多い。



#### (4) 年中行事について

##### 1) ロシアの祝日

1月1日	元日	5月1日	春と勤労の日
1月7日	クリスマス	5月9日	対ドイツ戦勝記念日
2月23日	祖国防衛の日	6月13日	ロシアの日
3月8日	国際婦人デー	11月4日	民族統一の日

- ◆毎年、政府決議により振り替え休日の日程が調整され、これらの祝日を中心に連休となることが多い。
- ◆正月は1月1日で、ご馳走で祝う。一年で一番楽しい祭日。正月休みは10日間ほどあり、この間は行政機関も休む。この間にロシアのクリスマス(1月7日)がある。またユリウス暦に基づく正月(1月14日)も盛大に祝う。
- ◆2月23日の祖国防衛の日は、もともとは軍人を祝う日だが、今では「男性の日」として軍人に限らず男性を祝う日になっている。
- ◆3月8日の国際婦人デーは「女性の日」として祝う。日本では知られていないが、中国やロシアなど旧社会主義の国では盛大に祝うので、この日にプレゼントがもらえないのは本当に寂しいと感じる女性が多い。男性が女性にお祝いの言葉をかけると女性にとっても喜んでもらえる。
- ◆5月1日の春と勤労の日はいわゆるメーデーである。ロシアでも5月1日から春の大型連休が幕を開け、5月9日の対ドイツ戦勝記念日で終わる。
- ◆6月13日のロシアの日はロシア連邦国家独立宣言を採択したのにちなんだ記念日。祝日になったのは比較的新しく1991年から。街ではコンサートなどが開かれる。
- ◆11月4日の民族統一の日は1612年のモスクワ解放を記念した日である。実際のところは、11月7日にレーニンの10月革命を記念した祝日があったが廃止することになったため、それに代わる11月の祝日として2005年に制定されたと言われている。ロシアは約200の民族からなる多民族国家であり、また様々な宗教が信じられている。このため、民族や宗教の違いを乗り越えて団結しようという主旨で祝うこともある。

##### 2) 帰国者と年中行事

- ◆ロシア正教の行事でパスハと呼ばれる復活祭がある。他のキリスト教の宗派同様、復活祭は最大の宗教行事だ。美しく模様を描いたゆで卵を作る。パスハが祝われる日は、春分の日後の最初の満月の後の最初の日曜日。この日は宗派を問わず墓参りに行くことが多い。
- ◆パスハの8週間前にはマースレニツァという祭りがある。冬に別れを告げ、春を迎える宗教行事で、本来は1週間かけて祝う。太陽に見立てた丸く大きなクレープを焼き、食べるのが習慣。
- ◆帰国者のうち、樺太帰国者の中にはロシア正教の信者はいないが、大陸からの帰国者にはいる。サハリンには韓国の教会があり、帰国者の中にもプロテスタント信者がいる。神仏の寺社は一つもない。樺太帰国者の中には韓国の年中行事が浸透している家庭も多く、特に元日には茶礼(祭壇を設けて家族みんなで祖先のお参りをする)を行う家が少なくない。
- ◆命日に墓参りをするという習慣はなく、家族で食べる物を用意して亡くなった人のことを語り合う。故人のことをたくさん話すことが供養になると言われている。また、お菓子を近所の子供に配ったりする。



##### 3) 夏休み

- ◆ロシアの夏休みは長い。学校は6月から8月までの3か月間が休み。職場も夏休みは長い。学校は9月1

日に新学期が始まる。休みを利用して子供は親と旅行し、余暇を楽しみ、見聞を広げる。サハリンから大陸へ旅行することも多い。

- ◆帰国者の元にも孫や子供が数週間単位で遊びに来ることがある。またその逆で、帰国者がサハリン等に残っている親族や友人の所に行くこともある。その際にはたくさんのお土産を持って行く。

### (5)ロシアの迷信

- ◆ロシアの生活にはいまだに様々な迷信が根強く残っており、刃物を人に贈る、敷居越しに物を渡すなどの行為は縁起が悪いと言われている。木製の机や自分の頭を叩いたり、左側を向いて3回唾を吐く真似をしたりする行為は災厄から身を守るという意味がある。迷信ではないが、点呼等で人を数える時には指をささない方がよい。中央アジアでは人差し指で指しながら数えるのは羊など家畜である。

## 5. 樺太等帰国者が描く自分たちの未来

帰国後、夫婦で暮らす人たち、家族で暮らす人たち、近くに親戚や子供らが暮らす人たち、あるいは日本に身寄りがなく独り暮らしをしている人たちなど、現在帰国者が置かれている家庭環境は様々です。自立した生活を送れなくなったときにどう生きるのかという選択は、誰にとっても重いものですが、帰国者たちにとってはさらに難しく重大な選択と言えます。

- ◆「介護される身になること」＝「寝たきりで何もできない自分」と考えてしまうのか、こうしたサービスの世話には一切ならないと言い切る帰国者もいる。介護予防やリハビリを含め、もっと多様なニーズに応えるきめ細かな仕組みがあることが把握できていないのかもしれない。
- ◆「自分が認知症になって自立できなくなったら施設に入るかもしれない」「将来何かあったらホームや施設に入りたい」「家族や親戚を施設に入所させることに抵抗感はない」と積極的な利用の意志を示す人がいる。その一方、日本人のホームヘルパーや介護・福祉施設等の日本人スタッフとうまくやっていけるのか、そして他の日本人利用者たちが構成する日本人コミュニティの中にうまく溶け込めるのかという漠然とした不安を感じている人も大勢いる。



帰国者の高齢化と共に介護福祉サービスを必要とする帰国者が増えることが予想されます。帰国者が日本人のコミュニティに受け入れられ、安心して暮らしていける環境を整えて行くには、まずは帰国者のことを少しでも多くの人に知ってもらうことが第一歩と言えます。

中国帰国者定着促進センターでは樺太等帰国者と祖国日本を繋ぐべく、今後も情報提供に努め、互いに理解し合える関係作りを心がけていきたいと考えております。

～介護・福祉サービスに携わる皆さまへ～  
『樺太(サハリン)帰国者事情・介護事情あれこれ』  
平成 29 年 8 月版

作成：中国帰国者支援・交流センター  
北海道中国帰国者支援・交流センター  
〒110-0015 東京都台東区東上野 1-2-13 カーニブレイス新御徒町 7F  
電話 03-5807-3173 (教務課)  
メール info@sien-center.or.jp  
ホームページ <http://www.sien-center.or.jp/>  
-無断転載・複製を禁じます。ご利用の際にはご連絡ください。-